

# 高速交通網調査特別委員会資料

(平成26年10月10日)

1. 県内鉄道の高速化調査について

【交通政策課】・・・1ページ

地 域 振 興 部

## 県内鉄道的高速化調査について

平成26年10月10日  
交通政策課

これまで、「高速鉄道網のあり方検討事業」の中で九州新幹線（長崎ルート）、山形・秋田ミニ新幹線など先進事例の情報収集を行い、県内鉄道的高速化調査のための前提条件を把握してきたところです。

この結果を踏まえ、「智頭・因美線ルート」及び「伯備線ルート」の高速化調査に着手します。

### 1. 前提条件

#### ○地上設備

- ・電化工事が必要となる。（電気設備、トンネル改築、ホームの嵩上げ等）
- ・軌道強化が必要となる。（ロングレール化、PCまくら木、道床厚確保、踏切改修等）

#### ○車両性能

- ・新幹線区間における走行性能  
時速270km/hで安全・安定走行が可能である
- ・在来線区間における走行性能  
直線部で130km/h、曲線部で現行特急車両と同等速度で安全・安定走行が可能である。  
ただし、半径400m未満の曲線部では現行急行車両と同等速度となる。
- ・FGT車両幅を変換するには、軌間変換装置（約100m）を含め直線で約1kmの軌道が必要となる。（通過速度は10km/h）

### 2. 「智頭・因美線ルート」、「伯備線ルート」の高速化調査

本調査は、線路状況や新幹線と在来線のアプローチ部の検討、線形改良電化関係の検討、到達時間の検討などを行います。（調査期間が約10ヶ月必要なため、2箇年で調査します。）

なお、本調査は、伯備線ルートは三県（鳥取県、島根県、岡山県）、智頭・因美線ルートは鳥取県で行います。

#### (1) 調査の内容

##### 【H26年度調査】

- ①線路状況の把握（曲線半径400m未満箇所の抽出、軌道構造の確認等）の把握
- ②新幹線・在来線アプローチ部の検討（軌間変換装置の配置検討、在来線乗り入れ検討等）
- ③線形改良の検討（曲線半径400m未満箇所の検討等）
- ④踏切の調査（改良必要箇所の抽出、改良構造の確認等）

##### 【H27年度調査】

- ⑤留置、検修機能（車両留置等の確保を検討）
- ⑥電化関係の調査検討
- ⑦到達時間の算出（運転図の作成、ダイヤ設定等の調査）
- ⑧工事数量・概算経費の算定

#### (2) 今後のスケジュール

- ・H26年10月 調査開始
- ・H27年3月 基礎調査完了
- ・H27年8月 調査とりまとめ

# 鳥取県内鉄道路線図

(H26.9現在)

